



# 竜馬、君ならどう

---

インターネットのもう一つの

---

渡辺 日出男

---

## 竜馬、君ならどうする—インターネットもうひとつの側面

### ソーシャル・ネットワーク

Mixiに登録してから3年ほどになった。当時、登録者数が50万人程度だったが、あれよあれよと思う間にどんどん増え、上場時には数百万人になった。現在は1000万人に近いのだろうか。

登録したのは、ソーシャル・ネットワークで一体何が起こるのだろう、インターネットの可能性の“もうひとつの側面”をみてやろうという動機からだ。

最近は、あまり開けることもない。何となく限界を感じたからだ。GREEにも登録しているが、同じような感触である。そして、きっと、これからのネットワークは分化していくのだろうと思った。MixiやGREEにさまざまなコミュと呼ばれる趣味や社会的な興味ごとのサブ・ネットワークがあるが、テーマを明確に持った独立のネットワークとして。2ヶ月ほど前、友人から薦められた比較的新しいネットワークに登録した。

ソーシャル・ネットワーク「インターネット議会 Wmode(ウィモード)」という。

経済ジャーナリストの浅井隆さんという方が設立したのですが、再生日本21という企業の5つの活動の中のひとつというよりエンジンと呼んだほうが良いのかもしれないのが、このネットワークです。(http://www.saisei21.jp/)

### インターネット議会 Wmode(ウィモード)

再生日本21の設立趣旨に以下の文章があります。

「この日本に必要なのはもはや改革ではない。革命と再生だ」と考えるに至りました。つまり、明治維新に匹敵するような革命が必要だということです。政治家も、官僚も、大企業に頼んでも、誰も助けてくれません。誰かが日本を変えてくれるのを待っていても、何も変わりません。それならば、自分たちで何か新しいものをつくらざるを得ません。つまり今こそ誰かが旗を立て、実行しなければならない時期にきています。……」

「自浄作用を失って進むべき方向さえも見失ったこの国のため、明治維新のような革命をもう一度現代に再現する必要性を痛感し、私は情報商社「第二海援隊」を立ち上げました。そしてこの十数年、自分なりに精力的に活動してきました。本を書き、多くの人達と話し、世界中を見て回りました。その結果私が感じたのは、日本人に足りないものがあるということです。それこそ、「志」、「本物の情報」、そして「師となりうる人材」です。そうしたものがあれば、日本を再生できるはずです。そこで、私はこの度「再生日本21」という組織を立ち上げることにしました。日本の将来を憂い、高い志と勇気を持って、日本を本気で変革したいと考えている人たちを集い、日本の変革を実行

するのが目的です。」

二つ目は、「戦略経済研究所」があり、野心に満ちた“内閣がこのシンクタンクの提言を認めざるを得ない、あるいはホワイトハウスが一目置くようなレベルの 高い提言を行なっていく予定です。将来的には、政策提言を行なう民間の中立の組織として存在感をアピールしていく所存です。”とある。

三つ目が、「クオリティ・ペーパー」

その計画は、「そこで、(株)再生日本 21 ではシンクタンクで収集した情報をより多くの人に発信するために、インターネット(または印刷による)を使った クオリティ・ペーパー、「リバイバル・ジャパン 21」(仮称)を発刊していく予定です。……インターネットを媒介とすることによって世代や国の枠を超えて、質の高い情報を提供することができるだけでなく、比較的少資本で新聞を発行することができ、多くの人に影響力を与えることが可能だと考えています。」

そして、四つ目としてすでに活動が始まっている「志塾」がある。この趣旨がすごい。

「歴史を振り返ると、動乱の時代に人材を輩出したのは、小さな“私塾”でした。

今から140年ほど前、坂本龍馬を代表とする幕末の志士たちによって、明治維新という偉業が成し遂げられました。吉田松陰の「松下村塾」、緒方洪庵の「適塾」など、在野の人間が開いた私塾から、日本を代表する綺羅星のような人材が育っていったのです。

現代の私塾—「志塾」は2006年9月に開講しました。第一期生14名が卒塾を迎え、日本を再興するための第一歩を踏み出しました。

この志塾生の中から、第二の坂本龍馬や西郷隆盛のような人物を多数輩出し、日本の改革の礎を築くのが、私たちの切なる願いです。」

そして、エンジンである「インターネット議会 Wmode(ウィモード)」だ。

「Wmodeは、高い志を持ちく、私たちを取り巻く情勢や時事問題に高い関心を持つ人が集まるインターネット上の広場です。ここではメンバー同士の交流、情報交換ができます。皆さんの活動や問題点などをこの場で分かちあいましょう。また、日本の諸問題を「議論」し、インターネット新聞の市民記者による「記事やレポート」の発表の場でもあります。日本全国に散らばる同志が、いつでも集えることがインターネット議会の最大の特徴です。毎日の日課にこの議会を覗いてみることを加えてください。」とある。

## ソーシャル・ネットワークの今後

私は、このネットワークは分化のひとつの形態だと思っています。目的を明確に設定し、その目的達成のための他の手段も持つ。

ただ、MixiやGREEに感じたような限界を超えられるものかどうか、今の私には分からない。日本の危機のようなものに関しては、基本的に浅井さんと同じ見方だが、明治維新を起こした志士たちのような志で物事が解決するだろうか、インターネットを介する情報で世界が変わる(これが、インターネットのもうひとつの側面)だろうか、という点で疑問があるのも正直なところだ。

すでに始めた「オーガニック・コットン」のシリーズに加え、「インターネットのもうひとつの側面、さらに改革について、今日のタイトルである「竜馬、君ならどうする」を同時並行でブログしたいと思っています。

この三つは互いに何の関係もないように思われるかもしれませんが、根底に流れるのは、「シナリオ作り」です。技術開発でこれまで述べてきたように、要素技術開発と最終商品の関係みたいなものです。今は、まだ漠然としてですが、この三つがどこかに収斂すると想像しています。

検索文字から推測して、このブログをお読みいただいている方は圧倒的にビジネス戦略に興味のある方だと思います。収斂した時に創造的な何かが生まれるかもしれません。演習として、一緒にお考え戴きたいと願っています。

そこで、「竜馬、君ならどうする」ですが、ある書籍を紹介しながら考えをまとめて行きたいと思います。2003年の出版で若干古いし、アマゾン書評で賛否両論の本です。当時、世界銀行副総裁のJ・F・リチャールが書いた「[問題はグローバル化ではないのだよ、愚か者—人類が直面する20の問題](#)」です。

お読みでない方は、アマゾンの紹介とカスタマーレビューをご覧ください。

次回から、リチャールが指摘する今後20年間に地球規模で解決すべき20の問題、その解決を難しくしている“世界人口の爆発的急増”と“ニュー・ワールド・エコノミー”の中で、日本はどう進むべきなのか、そしてわれわれひとりひとりに何ができるのか、を考えてみたいと思います。

昨日、オーガニック・コットンのエネルギーの最終回をアップした途端に、他の原因も絡んでテンションが猛烈に下がりました。理由は改めて書きますが、肩肘張らずに考えていきます。

2007.06.20 Wednesday 10:59 | posted by [渡辺 日出男](#)

## 竜馬、君ならどうする(2)

眞ほそいところはほそく、ガツンとひろくするところはひろく

— by ハーブ(平成ブログ格言大賞受賞作品)

この格言のせいで、予定していた原稿を完全に書き直すことになりました。当初、リシャルルの「[問題はグローバル化ではないのだよ、愚か者—人類が直面する20の問題](#)」のニュー・ワールド・エコノミーの負荷に焦点を当てて考えて行こうと思っておりましたが、ここは細くして、いきなり“ガツン”と行くことにしました。

最初に、意図を明確にしておきます。オーガニック・コットン(8)の仮想シナリオで、フェア・トレードについて触れました。オーガニック・コットン普及拡大にムーブメントが必要と考えていることは述べていますが、そのための社会的意義を検証するためです。ただ、ここで私が言おうとしているテーマは重い。ふ〜っ。そして、論議がフェア・トレードに上手く繋がるかどうか先行きがよく分からない。☹

でも、それとは無関係に重要なことですのではじめたいと思います。

### 日本がなくなる

数年前、中国の江沢民が、「日本は2030年にはなくなる」というようなことを言って、ちょっと騒ぎになったことがあります。私が同じような不安を持ち始めたのはビッグバン以後の急激な変化です。

乳母車に幼子を連れた若いお母さんを電車の中で見るとも多いのですが、いつもこの先どうなるのだろうと不安になります。

私を“じじ顔”と呼んだ友人の歯医者“説教アロハ”が結婚して子供が出来た時も、“ハーブ”も酔えば必ず、「早く子供を作るんだっ！」と叫ぶ時も、そして私の子供たちもいずれば子を持つでしょうが、それを考えるたびごとに心がざわざわするのを止めることができません。

老い先短い、しかも力もない私が「何を考えても、何を言っても、世の中なるようにしかならないか」と絶望とあきらめの気持ちでした。

それが、“どく”に頭をひっぱたかれ、フェア・トレードも知らなかった私を、「お前、何にも知らないんだな」と呆れられ、友人の薦めでインターネット議会 Wmode(ウィモード)に登録してからのこの間“だらしない生活をしながら”考えました。きっと、私にもできることがある、と。

不安の種の根本は二つです。そして、これは正しいと私は思います。

日本人の個人資産が、複雑な金融システム(実は全然複雑ではない。そう見えるだけ)を通して奪い取られている。

日本の唯一の資源とでも言うべき技術も根こそぎ奪い取られようとしている。

これがもたらす結果は、日本が夕張市になるということです。

### タイムリミット

リチャールは、人類が直面する問題を解決するのはGDPの5%の投資だけで良い。課題は時間だ、と言います。ドッグ・イヤー(人間の1年が犬の7年に相当することから、1年でできることでも7年掛かってしまう)でしか物事が進まない現在の世界機関や各国政府だけにそれを任せていてもタイムリミット(20年以内に解決の道筋をつけること)に間に合わない。

リチャールは、その解決策(不備ではあるが、と断りを言いつつ)を、各国政府、産業界、市民社会(NGO)の協力で、インターネットで結ぶ世界ネットワークを作る。例えば、環境問題に対しては、そのネットワークが企業ランクをつけて世界に発信することで、企業の環境保全に反する行為を止めることができる、というような例を提唱しています。

ここを読んだとき、本のタイトルの割には・・・と思いました。正直なところ。でも、今そんな論議に割く時間も惜しい。

そんな“世界が直面する20の課題解決”に寄与する以前に日本がなくなってしまう。

タイムリミットは、郵政民営化のころ言われた日本人の個人資産、1,300兆円(この数字が正しいかどうか分かりませんが、仮にそれが正しいとしても現在は多分大幅に減少していると思われます)が、減少してあるレベルに到達する時だと思います。それが、何時なのか。

### 収奪の構図

戦後60周年(2005年)で、“やっと戦後からの脱却”、あたらしい日本、日本人独自の手による憲法をなどという論議が盛んですが、戦後など未だに終わっていません。

**日本からの富の収奪は一貫して続いています。**

それは、終戦と共に組み込まれたグローバリズムの中の政治体制であり、経済体制に拠っています。これを米国戦略と言って脱アメリカと叫ぶ人もいますが、それはちょっと浅い見方かもしれないと思います。

私がここでいうグローバリズムは、戦争の両方に資金供与して両側から儲けるような世界のほんの一握りの金融資本のことです。

最近では、日本への投資ファンドを通じてその運用部分が一般にも知られるようになりました。

これは良い悪い、の議論の対象ではありません。少なくとも私はする気はない。彼らは、資本が資本を生むチャンスを決して逃しません。先進国であろうが発展途上国であろうが、独裁政権であろうが、民主国家であろうが…。これが、資本の論理です。米国は、軍事的にも超大国です。その意味で、米国と重ね合わさることが多くなるから、そう言っても間違いではありませんが、米国ですら、彼らの手のひらで踊っている部分があることも事実でしょう。日本は、戦後直後からグローバリズムに巻き込まれているのです。今更、グローバル化と大騒ぎするのはおかしい。リシャルルの日本語タイトルは、日本人に対するあてつけか？と思いました。

富の収奪は、お金を持っているところから奪い取るか、弱くて安い労働力の搾取か、の二つです。泥棒は前者からですが、でも、巨大な金融資本を盗人呼ばわりするのは間違いです。それは、単なる感情論。それを言っても決して解決になりません。

ソ連の日本分割を阻止した米国、天皇訴追を退けた米国は、その対価として当然のごとく日本を基地化しました。最近、一部の空域が民間に解放されましたが、今だって日本の空はほとんど米国のものです。そこから発生した航空機事故、例えば、以前高知県で発生したことでは日本の事故調査すらできなかった。

属国です。悔しいけれど。

戦後、日本は米国の小麦の消費国になりました。その後農産物の自由化という形でオレンジ、米等々に対する市場開放要求が続いたことは今更言うまでもありません。日本が軍事費にお金を割く必要がなく、その分産業活性化に力を注ぐことができました。

そして歴史上なかった経済成長を遂げました。これは、おそらく米国が考えていなかったほどのものであったと思います。

そして、あれよあれよという間に、世界第二の経済大国になりました。その間80年代

前半までの米国はベトナム戦争の疲弊で経済界も自信を失っていた時期でした。米国が世界のNo1の地位を確保するために、その実態は名ばかりの同盟国として国連に対する拠出金、ODE、その他もろもろの対外支援金の膨大な支出を余儀なくされ、米国国債の第一の引き受け手になりました。

バブルの終焉から日本にはそんな肩代わりをする実がないのに、それでも続けざるを得ない。それが、日本の800兆円とも1,000兆円とも言われる借金の一歩の要因だろうと思います。

聞かたびに顔が引きつる社会保険庁や天下りの外郭団体の無駄使いは勿論、それに輪をかけているのですが……。

日本の経済力に限界が見え始めた頃から、今度は別の(私には露骨な、と思えますが)手段で収奪が始まりました。

それは、ITをイットと読んだ森前首相の頃からです。それ以前の米国のITバブルの日本での再現です。1990年代後半以降です。アイデアとも言えない事業計画を証券会社が作り、売上げがなくとも上場できるマザーズなどの市場が作られてからの起業、**上場ブーム**です。

個人投資家の熱をあおり、株価を高くして売り抜ける手法です。表面からは日本の証券会社だけがそれで儲けたように見えますが、そこから確実に外国資本への流れがあります。

**分かりやすい構図は、ライブドア事件。**

ライブドアが日本放送の買収資金を調達した外資証券会社は大儲けですが、それは損害賠償を起こしている日本の個人株主のお金の収奪に他なりません。

収奪の形態は、勿論他にもあります。

ゼロ金利政策によって銀行は史上最高の利益を出しました。主要株主には外資が名を連ねます。金融危機を煽り、銀行に税金を投入し、預金者の得るべき利益を横取りし、二重の収奪が行われます。

**誰の責任か？**

これが問題なのです。

ゼロ金利政策を決定した福井総裁が悪いのか？

それに追随した政府が悪いのか？

それを食い止められなかった野党が悪いのか？

私は、この論議も不毛だと思います。ここにはわれわれ個人が何かをできる余地はほ



とんどないと思うからです。

いくら元気の良い野党議員がそれを追求しても、結果は同じ。その議員が与党になったら、同じ事をやる。

**なぜか？**

理由は、この事例を見れば分かる。

ご本人は、ブラック・ジョークの心算だったようなのですが、米国でのスピーチで、「日本の米国債の引き受けが米国を救っている。あまり難しいことを言うと引き受けない」というような発言をした元総理大臣故橋本龍太郎氏の、その直後からの凋落ぶりです。

一般的には政策ミスによるものと報道されていますが、氏の中国女性スパイとのスキャンダルの暴露などに、他の力が働いたことは容易に推測できると思われま

す。日本という、その意味では特殊な(戦後の復興期に否応なしに組み込まれたという意味で)形で資本のグローバリズムに組み込まれた政治、経済体制の限界だと思

います。政治に、税制に、教育に、これまでのような反対意見やその改革の必要性を訴える世論の形成活動、それはそれで結構だと思

しかし、それではタイムリミットに間に合わない。

株主自己責任、企業価値、こんな言葉が大流行ですが、これは個人に責任があるという都合の良い啓蒙にすぎないような気がします。

大事なことではありますが、**何か**が欠けている。

この点は、後述します。

**日本唯一の資源、技術も奪われる**

不安の種のひとつ、個人資産の収奪について長々と述べました。

二つ目の不安、技術も奪われるは、現在、その真っ只中にあります。

三角合併が解禁になり、日本企業の外資による買収がより容易になります。そのため、経営者は知恵を絞っています。

しかし、その前にすでに日本の優良大企業の株式の40%以上が外国人投資家のもの

のです。

日本のどこの企業だって、世界を牛耳る金融資本がその気になれば買収されてしまう条件は整っています。

日本の大企業の技術はやはりすごいのです。

その特許を持っている企業そのもの、そしてノウハウを持っている技術者たちの能力と技能もすばらしいのです。

その40%はすでに日本のものではない。

市場原理主義は世界の流れです、残念ながら。

私は、一昨年、“企業は誰のものか”に関するブログで、市場原理主義に踊ってはいけない、日本を守るためには商法すら変えなくてはならない、などと書いたのですが、無知を恥じます。

世界の流れとかけ離れた商法の改変など、問題の金融資本の存在を考えれば、日本の当局の誰もやる気も起きないし、できないでしょう。

私のようなことを言ってもそれは無責任な井戸端会議、愚痴の類だと思います。

ただ、世界資本は決して馬鹿なことはしません。その末端の一部は跳ね上がったことをするかもしれないが、きちんと利益を挙げている日本大企業が一気に買収されることはない、と私は思います。

なぜか？日本の購買力がその利益の源泉の柱でもあるからです。(甘いかな?)

日本の購買力は、最初の問題個人資産と深い関係があることは、説明するまでもないことです。

が、もうひとつ。リチャールが指摘する“市場原理主義がもたらす所得格差”は、日本でも急速に進んでいます。年収200万円以下の層の増大。

これも私などが説明する必要もないでしょう。

その結果、日本の購買力が低下して、ある水準以下になった時、大企業の買収は一気に加速すると思います。

日本市場からの稼ぎの少なくなった日本企業を買収して技術ごとに切り売りする。技術者までつけて。

買い手は、世界中にあります。

## 日本の購買力は低下する

### 1. 個人所得

お金持ち優遇と言われた累進課税率もとっくに変わっています。累進課税の恩恵を受けるのはせいぜい日本世帯数の3%です。数にして、120万世帯、人口にしたら多分400万人弱。その上位は、世界のどこでも生活できる人たちです。海外のプライベート・バンキングを利用しているから利息に税金もかけられない。さらに。住民税を逃れるために香港に居を移し、日本に出稼ぎの状態にしている富裕層もいます。巨額の投資から得るキャピタルゲイン課税も既に引き下げられました。

日本の法人税は、昔は高いと言われましたが、今は既に国際平均を若干下回っているはず。経済団体からは更なる法人税引き下げ要求が出ています。

外国人株主の配当要求圧力は強くなっても弱くなることは決してありません。経営者が株主によって簡単にええられてしまう今、利益を上げようとすれば給料を上げることに限界があります。

そして、年収200万円以下の層の増大。

つまり、97%の普通の人たちの所得の増加は期待できない可能性が極めて大きい。

### 2. 物価上昇

さらに、世界はインフレを克服したとリチャールは言います。世界規模で見ればそうなるのでしょうか。

しかし、日本ではインフレは起こると思います。私は、堺谷太一氏の2030年を描いた小説(題名を忘れました)がインフレを予測していますが、その方が正しいような気がします。

その基本は、これも専門家が沢山いますので、間違っていればその方たちに修正して欲しいと思いますが、ひとつは食料自給率が40%ということです。日本の相対的な立場が弱くなれば購買力が落ちれば、売り手は価格を上げます。それはスパイラル作用で上昇すると思います。

もうひとつはハイテクに関係しますが、タングステンを始めとする希少金属の価格も上がります。日本にはありませんから。

所得上昇の低下とインフレは確実に日本の実質購買力を下落させます。

それは、日本の税金歳入を減少させます。前述のように、とっくに法人税水準は低くなっています。

**歳入が増加する要素などどこにもない。**

したがって、海外に逃げられない97%の人たちの税金は高くなる。医療費も高くなり、福祉も切り捨てられざるを得なくなる。公共サービスは悪化します。そう既にその現象が始まっています。

夕張市現象が国ぐるみで起こることになります。

**最悪のシナリオの中で個人ができること**

この最悪のシナリオについては、多くの人が指摘していると思います。ただ、私がここで言うような、そのシナリオの根っこが個人資産の収奪と技術の奪い取りにあるという見方があるのかどうか分かりません。私の間違いかなとも思いますが、間違いなら、日本に打つ手はほとんどないのではないのでしょうか？それが、正しいのであれば、われわれ個人がやれることはあると思います。

私は、昨日の報道にあったブルドッグ・ソースとスティール・パートナーズの攻防の株主総会にヒントがあると思っています。

そこで、「竜馬、きみならどうする」と問いかけたいと思います。

2007.06.26 Tuesday [18:41](#) | posted by [渡辺 日出男](#)

### 竜馬、君ならどうする(3)

前回、個人資産が収奪されている、個人ができることについて、『私は、昨日の報道にあったブルドッグ・ソースとスティール・パートナーズの攻防の株主総会にヒントがあると思っています。』と書いた。

ご存知とは思いますが、この攻防の概要は以下の通りです。『ブルドッグ・ソースにTOB(株式公開買い付け)を仕掛けている筆頭株主のスティール・パートナーズの対抗策として会社側が提案した新株予約権の発行が、3分の2以上の賛成を得て可決された、というのが24日の株主総会。株主総会で新株予約権の発行が承認されたものの、スティール・パートナーズは既に、新株予約権の発行を差し止める仮処分を東京地裁に申請しており、今後は、司法判断が焦点となる。さらに、スティール・パートナーズはTOB価格を当初の1584円から

1700円に引き上げ、6月28日までとしていた買い付け期限を8月10日に延長してブルドックに徹底抗戦する構えを見せている。』というのは皆さんご存知の通りです。

総会で、スチール側は“対抗策のために約23億円の費用をかけることに批判的な質問”をしたが、それに対して議長の池田章子社長は、「企業価値と株主共同利益を守るために必要な費用だ」と応じたと報道されています。

今回の件では、TOB宣言当初からブルドック経営陣の毅然とした態度が評価されているように見える。

### 企業価値？

私が見たのは翌日のNHK、株主総会に出席した二人の男性のインタビューです。

お二人とも、次のようなことをおっしゃっておられた。

「スチール・パートナーズからは、具体的なビジョンが示されなかった。私は提案に賛成したが、やはり問題は企業価値ですから、経営陣には頑張ってもらわなければ・・・」

商法で言えば、株主と会社の関係は改めていべきことでもないが、ライブドアとフジTV(正確には日本放送ですが)の事件以来、株主が実に偉そうになってしまった、という感想を持ってしまう。

公開市場で株を買う。しかし、会社には一銭も入っていないのです。

遑れば、誰かが実際に会社にお金を出資して株式を取得し、それがまわり回ってあなたが肩代わりしたということになるので、株式保有分だけ会社を持っているということには違いないのですが、それは早い話、会社の知ったことではない。

あなたが配当を目当てに買ったのなら、業績が良くなるように祈るか、何かの形で応援するか、あるいは企業戦略を熱心に勉強してあっと驚く魔術を経営陣に伝授するかの三つしか方法はない。

短期間に値上がりすることを期待して取得して、四六時中売ったり買ったりする株主などに、なぜ会社はへいこらしなくてはならないのか？

これは実にありがた迷惑なのだ。経営者がそんなことを言うと、袋叩きに合うから決して口にしない。本心は？と聞かれたって言わない。

投機目的で持った株主が、企業価値などとのたまうのはちゃんちゃらおかしい。

企業価値は将来価値。

将来価値は本質的に連続して開発される新商品からしか生まれない。

資産の売却や経費の異常な削減からの利益は一時的なものにすぎない。

### 個人株主が収奪を防ぐ？

今回のTOB以来、ブルドック・ソースの経営陣はその対応に多くの時間を割いています。

対抗策のために約23億円の費用もかける由。

総務の人や経理の人は大変な労力をこのために使う。営業の人も顧客対応に追われる。開発の人も浮き足立つ。

これすべて、将来の価値、企業価値を大きく引き上げる可能性となる。

新株予約権の発行を議決したのは大方の株主の良識なのでしょう。

ついでに、企業価値を損ねたとの理由で、スティール・パートナーズに損害賠償を請求してはどうだろうか？

会社はできない。

しかし、本当に企業価値に期待する個人株主ならできるだろう。

裁判で勝てるかどうかは不明。多分、難しいだろう。

しかし、このような個人の行為が頻繁に起これば、無茶なTOBをかける外資ファンドは日本人を、日本を、警戒することになる。

勝てるかどうか分からない裁判に持ち込む個人株主の勇気を、われわれひとりひとりがどのように支援できるか？

日本からの収奪を防ぐ具体的なひとつの形だ。

しかも個人ができること。

### 個人株主が格差を是正する？

全国に100店舗以上あるレストラン・チェーンがある。静岡の小さな居酒屋を数店舗持っていた人が、一念発起、起業家精神に燃えたのか、あるいは証券会社 に踊らされたのか、上場した。起業家も証券会社(機関投資家)も儲けた。業績が伸びなくなり、コンサルティング会社が経営を引き受けた2-3年後。さらに、経営母体が他に移った。

知り合いの息子が、ある地域の数店舗を任されるエリア・マネージャー。

一日ほぼ15時間勤務。終電に間に合わないので、週に3-4日は店舗で寝る。休日は月に一度。どこの店舗も社員は店長ひとり。未熟な20代。あとは全員アルバイト。指示を仰ぐための電話がひっきりなしに鳴り、休む間などない。

雇用の実態。

経費削減のため、アルバイトを何人出勤させるか、勤務時間を最短にするために、その日のお客の入り具合を予想して5時出勤から7時出勤までばらばらに手配する。

手配が多い割りに客が少なければ、僅か2時間で帰ってもらう。暇と予想して、7時の手配にした。開店直後の5時に4組の客が入る。飲み物から料理まで店長一人でやらなければならない。

嘘だと思うでしょう。でも、これ事実。

そして店長の給料、20万円から25万円。エリア・マネージャーは、月給30万円。ボーナスなど一度もない。終電に乗れなくとも残業代もなし。

### 誰のための起業、上場？

レストランの上場はいつも不思議に思う。起業家(?)の店舗拡大の事業欲は満たされるかもしれない。しかし、一店舗を見れば、利益を出すのは材料費を削減するか、人件費を抑えるしかない。材料費の削減には限度がある。客が来なくなるから。そのしわ寄せは全部従業員に。

証券会社(外資ファンドも大抵のっている)は上場で多額の儲け。

なぜ？

個人株主が踊り、新規上場株を買うから値がつく。

起業は産業の活性化だとさ。どこが？

これ、勝ち組、負け組の典型的な構図。

格差社会の元凶。

個人ができること。

こんなレストラン株や子供相手のどうでも良いサービスの上場株は決して買わないこと。

### 市場原理主義との対決

とは言っても、皆お金が欲しい。儲ける機会は逃したくない。

しかし、個人だからこそできることが、ここにある。

リシャールは言う。

「問題解決のすべてを市場にゆだねれば、増大する社会問題が放置される。」

数学者藤原正彦氏は言う。

「愚かなり、市場原理信奉者」(論文)

「市場原理主義は長い目で見れば結局国を滅ぼす。」

「今こそ日本型資本主義を前面に押し立てるべき時ではないのか。それは生き馬の

目を抜くような競争社会ではなく、側隠に主軸をおいた社会である。」

関連ブログ

[MOTと企業文化\(6\)―村上ファンドが提起する“企業とは何か？”](#)

[イノベーション・企業価値・株主\(1\)](#)

[文芸春秋「愚かなり、市場原理信奉者」](#)

2007.07.02 Monday [21:32](#) | posted by [渡辺 日出男](#)

### インターネットのもうひとつの側面―竜馬、君ならどうする(4)

竜馬シリーズを読んだと“どく”から電話があった。今回は、“じじ顔”でも“お前”でもなく、“ひでお”と呼んできた。以下その会話を。太字は“どく”。

再生日本21のサイトを見た。“ひでお”のイメージと全然違うけどどうして登録したんだ？

Mixiに「日本の未来があぶない」というコミュがある。いろんなコミュがあるが最大だと思う。最近チェックしたら、9000人ぐらい参加者がいる。俺がたったひとつ参加したコミュだ。

誰かが、「○○について私はこう思う。これ日本の未来についてあぶなくない？」と書き込みをする(トピ立て)、それについて、賛否両論大いに議論が沸騰する。中には相当激しくやり合うものもある。一度、「出身学校でコミュ作るのって気持ち悪いんですけど」ってトピ立てたら、何が悪いんだって、こてんぱんに やられた。ごめんなさいって退散した。大変なんだ。意見に、一々返事書かなければならないし、書けばまたそれに対して来る。ものすごいエネルギーの浪費 だ。“炎上ブログ”っていうのがあるのだけど、俺はすごいのを知っている。俺のブログ「企業はだれのものか」にTBかけた人なんだけど。ネットでは有名 だ。今でも、そのまま残っているから読めるよ、興味があれば。

俺だって、ブログ書く時は相当の覚悟でやっている。批判すれば、やられるもの。ごめん、話がそれた。

Mixiのは、それでも、一時期、ちよくちよく見ていたのだけれど、その議論から特別何かが生まれるということはないように思う。せいぜい、選挙の投票だけは行こうぜみたいな……。

「最近、日本の食糧自給率が40%と聞いて、これちょっとやばくないっすか？」というのもあった。“おいおい、その前提を知らずに、このコミュに参加したのか”と思っちゃっ



た。

いろいろな分野の物知りがいて、情報交換みたいなことで意識を高めあうのは良いことだとは思うけど・・・。

そんな限界を感じていた時に、ウィモードを紹介された。改革、再生をあそこまで大段に構えられると俺だって期待するよ。

**それで、今どう思っているの？**

まだ、よく分からない。Mixiとは違って年齢層が高いし、俺が交流している人は、ごく限られた人たちだが、教育問題に真剣な人が多いという感じがする。他はあまり良く分からない。俺、ブログでこのネットワークを紹介したのは実験なのだ。

**何の実験だよ。**

俺、表題に、“インターネットのもうひとつの側面”って書いてあるだろう。

**それ、聞いたかったんだ。どういう意味だ？**

リチャールが、インターネットによって時間と空間を越えたことがニュー・ワールド・エコノミーの技術原動力で、それがビジネスの考え方を変えたと言っているだろう。まだまだそれが進化するみたいなことを言っているけど、俺はその点は既に終わったと見ている。

ほんの僅かの時間差を利用して、各国の為替相場で大儲けした奴がいる。日本人じゃないよ。大分前のことだけど、それが時間と空間を越えた究極の形だと思う。リチャールがいろいろなビジネスでの例を挙げているのは、どれも同じだ。俺が、オーガニック・コットンで文献調査をしたろう。インターネットがなけりやできなかった。しかし、それも、そういう類と言える。

もうひとつの側面というのは、“個人の情報発信がインターネットを通じて他の情報発信と交わり、付加価値の高い情報に成長して、幅広い人たちに影響を及ぼす仕組みの構築”とでも言ったら良いのだろうか・・・。

**具体的に言ってもらわないと分からない。**

うん。例えば、前回の竜馬で、日本の個人資産が収奪されている、と書いたろう。その

原稿を書いている時、たまたまウィモードのスタッフの一人が「本当のやりがいはどこに？」というタイトルで、現在の若者の労働環境について、次のように書いている。

『安い賃金で過酷な労働条件なのに、その場でのやりがいという美しい言葉で彼らの力を吸い上げている。正社員であってもなくても、処遇に見合わないぎりぎりの献身を若者から引き出そうとする企業が増えています。

本人の能力を育て伸ばしていくための応援とは受け取れないほど、過酷になってきている。その結果、彼らはときに疲れ果て燃え尽きる。しかもついていけなかった自分がダメなのだと思力感を持って去っていく。若者の可能性の芽を摘んでおきながら、逆に彼らに咎を負わせることになってはいないでしょうか。』

それに対して、

『まさに労働の搾取だと思います。』

『現状は奴隷制度と言っても過言ではない状況ではないでしょうか。』

という共感や、

『全力で子供達、若者のために力を注げばどんな子も必ず変わります。そしてこの子供達がやがて国を変えたいと思います。』

という希望のコメントもある。

俺は、個人株主の行動が、労働の搾取や格差拡大に拍車をかけているという構図を前回書いた。この感想の会話を構図にしたわけだ。問題の根っここのひとつだ。しかし、この程度では、人を説得するには弱い。単なる感想に毛の生えたようなものだ。

再生21の狙いのひとつにクオリティ・ペーパーがあるだろう。俺は、そこに経済のエキスパートがいると期待している。その人が、仮に、具体的な収奪数字を算出してくれたら、俺の情報発信にもものすごい付加価値がつく。別に、まったく知らない人でも良いんだ。そういうことに関心があって、データを持っている人に届けば、その人が呼応してくれるかもしれない。

アナリストなら多分簡単にできると思う。しかし、証券会社やインベスト・バンクに勤めているから公にはできない。インターネットの匿名性を利用して、その気になればできるし、そんな人はいると思っているんだが……。

情報の付加価値の意味は分かったけど、それで？

ブログ間とか、それとソーシャル・ネットワーク間の発信情報と付加価値の付き方みたいなものは、今でもある。しかし、偶発性という点で、俺が終わったとする片方の面のうちだ。問題は、そのような個人情報が累積されて付加価値が高くなり、真に重要な

ものが社会に広がる仕組みをどう作ることができるか、ということ。単なる偶発性に期待するのではなく、改革や日本の再生をテーマにするなら、その意図の結果として。

そういうことは既に起きているのではないのか？

ビジネスの分野でオープン・イノベーションというのが最近脚光を浴びている。IBMやコダックだったかなあ、分かりやすく言えば、以前は技術開発など社内秘一辺倒だったのだが、顧客と共に、あるいは従来なら競合と言われるところと一緒にインターネットを通して共同でやろうとする試みだ。技術をより早くマーケットへ、ということと、互いが持っている技術や情報を融合してより良いものやサービスをという考え方だ。リチャールも言っているが、ハードを売るよりもサービスを売っているからだ。その通りなんだ。ビジネスの形態が変わってきている。そういう流れで起こっていることだ。ITではソース・コードを公にして、それからどんどん新しいものが生まれるということは早くから始まっている。ただ、これはビジネス、それも技術とか開発といった分野に関心の高い人たちの間での話だ。インターネットという広大な空間から見ると極めて狭い領域にすぎない。個人ブログなんて、宇宙に浮遊するゴミみたいなもんだ。

言おうとしていることは、一時書いていた創発みたいなことか？

あれは、ジャンセンの本を翻訳した本人である山口さんのブログを紹介した(2005. 10. 28「創発」に水をぶっかける一ポツ、ボクじゃないですが)や(2005. 10. 31「創発」に水をぶっかける一ポツ、ボクです)で決着済みと思っているが、複雑系の人や俺にもっと勉強しろとコメントをくれた社会学の専門らしい人からまた、分かりもしないで・・・と叱られるかもしれないな。

そういうことではなく、“日本を改革しよう”と思っている人は多い。何とかしなければと、各人各様の想いで物事を見、考え、ブログから発信している。

しかし、インターネットにおける“個人が発信する情報の伝播力は決して大きくない”ということなんだ。

俺のブログは一日平均約400のアクセスがある。ありがたいと思う。しかし、単なるクリックのみで終わる人もいれば、トラック・バック目的の人もいる。実際に読んでくださっている人は、その半分とか3分の1かもしれない。ビジネス戦略という狭い領域で無名の個人ブログとしては少ないとはいえないが、その程度だ。

お前のお陰で興味を持たせてもらったオーガニック・コットンを単に紹介するだけでは、

俺のブログのテーマ、ビジネス戦略、と異なる。そのためシナリオ作り の演習を考えた。同時に、本来ならまずアクセスのないはずの人、ビジネス戦略なんかに興味のない人からアクセスがあるかどうかを見るための実験でもある。もうひとつの側面の効果的な仕組みを考えるためだ。

**リンクやトラック・バックを沢山やれば良いのではないのか？**

効果はないとは言わないが、どうかな。ブログが盛んになったころ、アクセス増加の手段とばかりにめっちゃやたらにTBしたり、コメントを書きまくった人たちがいる。俺も何度かやったことがある。ビジネス目的、それも儲かる投資とか、エロいサイトへの誘導が主だった。もちろん、真面目なものもある。

俺のブログには、[ロジカル・シンキングをテーマにした質の高い個人サイト](#)から飛んでくる人が多い。その方が、リンク集に俺のブログを「学ぶところの多いサイトで、ロジカル・シンキングにも厳しい見方をしている」みたいな紹介を書ってくれたからだ。

小泉郵政選挙の時は、団藤さんという時事通信の記者が、[ブログ時評](#)で、反対意見のトップに俺のブログを紹介してくれたからだ。ロジカル・シンキングは俺のブログと基本的にテーマが似ているから、そこから来た人は継続的なアクセスをしてくれているかもしれないが、郵政選挙でアクセスしてくれた方はどうか分からない。ただ、この何ヶ月間も、もっともアクセスの多いページは、「[小泉郵政選挙におけるビジネス教訓](#)」というブログだ。

単なるトラック・バックやコメントは、むやみやたらにやっても効果はないと思う。俺のブログに来て、すぐに無関係と分かるTBやコメントには余程のことが ない限り、クリックすることはないと思う。びっくりするようなエロいものなら、今度は俺自身がサイトを汚されたような気になって、慌てて削除する。実際 あった。

**それでは、拡がらない理由は何だ？**

それ、大事な質問。そうならないということを認識することが必要だと思う。インターネットは時間と空間を越えたけど、それはあくまでも、それぞれの人の持つ一日24時間という物理的な制約の中でのことなんだ。みんな忙しいだろう。寝て、ご飯食べて、お前のように暇さえあれば掃除する。買い物だって行かなければならない。当たり前のことだろう。でも、サイトを作ったり、ブログ書いたりする時、それを忘れて

いることが多いんだ。サイトさえ作れば、物が売れる、人が読んでくれる、何かが起こるという風に。  
インターネットの神話みたいなもんだよ。

グローバル・ビレッジという言葉がある。英国人の女性が作った日本の環境NGOがあるけど、それとは違う話。多分、名前の由来はそこだと思うが。

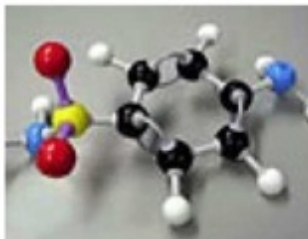
マクルーハンという人が1962年にゲーテンベルグ・ギャラクシという本の中で、使った言葉で、「電子メディアが空間と時間の壁を壊して、人はグローバルなスケールで交流する中で生きることになり、この意味で世界はひとつの村になる。」というものだ。まだ、インターネットなどない時代の預言だよ。さらに、そこで、「その技術(インターネットのことだけど)が人の認識力や社会に及ぼすインパクトをきちんと理解しなければ、世界は恐怖と全体主義に陥るかもしれないし、(うまく使えば)世界的な問題解決を可能にする世界フォーラムを可能にするかもしれない」というようなことも言っている。

リチャールの提言は、正に後者のことだよ。行政、産業、市民社会の代表者で世界フォーラムを作る、というやつだ。難しいけどやらなければならないと。俺には、彼が国連でもできないと言いながら、似たようなものを提言しているようにしか聞こえないが、彼もそこにジレンマを感じていることが行間ににじみ出ている。

われわれもマクルーハンと同じようにインターネットの無限の可能性を心のどこかで神話のように信じているところがあるのかもしれない。

難しい話になってきたな、それで宇宙に浮遊する個人ブログやサイトの話はどうなる？

なかなかイメージを表現できる画像がないのだが、借り物の下の模型図で説明するね。



出所: <http://www.nucoop.jp/book/model.html>

ここに球があるけど色も大きさも全部違うものと考えて。そして、それをつないでいる

ものもないと思って見て、最初は。

それぞれの球を個人ブログ(情報発信源)とそれアクセスする人の数とするね。小さいものから例えば一日1万というようなアクセスを持つブログまでが、インターネットの広い空間に浮遊している。大きなアクセスを持っているものだって高がしれている。空間の広さから見ればね。星屑みたいなもんだ。

色が全部違うのは、ブロガーの興味(テーマ)が違うってことだ。似ている色もある。ロジカル・シンキングと俺のブログのように。それが、細い線で繋がっている。それが、効果的なリンクだ。しかし、それもあくまでもビジネス理論などに興味のある、俺の推測では日本にせいぜい1万人か2万人いる人たちだけの間の。しかし、その人々だって、多数ある有名コンサルタントなどの他のサイトに行くから分散する。

ブログとか個人のウェブ・サイトは基本的に非常に閉鎖的になってしまう。24時間しかない内の時間をやりくりして、何かの目的でアクセスするわけだろう。必然的に自分にとって役に立つものにしかアクセスしなくなる。これが、情報の伝播力が小さいということの理由だ。

なるほどね、そう言われりゃ、私だって似たようなサイトにしか行かないな。それで？

収奪のことをまた例にして話すね。

今は、ネットワークで労働環境を話し合った人たちと俺のブログは細い糸で繋がっているかもしれない。しかし、誰かが俺の“収奪の構図”に付加価値を付けてくれなければ、その細い糸は、すぐに切れる。また、浮遊する一個の球に逆戻りだ。

ところが、付加価値がついて、それが大きければ大きいほど、そして誰もが納得する客観性があれば、糸は太くなる。同時に球も大きくなるかもしれない。それが、右の黒い球が繋がっている状態だ。それが、一個一個の球に存在する個人に強い刺激を与える。もやもやが解消するからだ。もやもやの解消は、解決策の糸口になる。解決のための行動が誰かから発信される。それに付加価値がつく。合理性と実現性という点で取捨選択される付加価値だ。それが、行動の源泉となる。個人の考えや小さな力が、価値が付加される過程で研ぎ澄まされ、パワーになる瞬間だ。

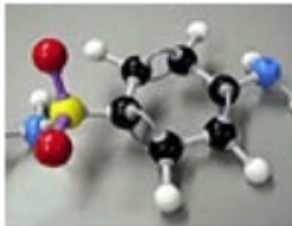
以前、中国で日本大使館の襲撃があったろう。インターネットであつという間に大群衆が集まった。すごいパワーだろう。そういうことか？

全然、違う。あれは心の底に潜んでいる感情の問題に火が付いただけで、付加価値などどこにもない。

おまえの質問には、逆に使われれば、ファッションにもなる、という含みもあるのだろう。それが、グローバル・ビレッジでマクルーハンが指摘する恐怖と全体主義の話だよな。俺は、そういうことは基本的にインターネットと無関係だと思っている。例えば、北朝鮮。国営放送だけで、それができる。日本が敗戦した時、日本人が襲われるというデマが、あっという間に広がって、逆に日本人が襲うという痛ましい事件があったらしい。恐怖という感情の伝播はものすごく速いということの証拠ではないか。

実際、ネットには猛烈に過激な球がある。日本の戦争は正義だった、とか例の従軍慰安婦などいなかったというような。読むとちょっとびっくりする。しかし、その球はパワーになるほど大きくはならないと思う。価値の付加の余地が少ない。感情だからだ。今のところ、大多数の人の理性が抑止力になっていると思う。これからもそうであって欲しいと思う。

それで、ひでおの考えている伝播力を高める方法って、何なの？



この模型図で黒の右に繋がっている青い球を見てね。左の緑と繋がっているのが俺のブログとするね。俺のはイノベーションが主テーマだし、青の人のテーマは財務関係かもしれない。俺とは直接繋がらないが、収奪の付加価値で繋がった人が財務と似たようなテーマでブログを書いていると、青とつながる可能性が大きい。青の人が日本の改革や再生を常日頃考えていないとしても、心の底には現状で良いと思っていないに違いない。そこで、黒の輪とそこでのパワーを感じ取れば、青の人も自分のできる範囲で何かをしようとするかもしれない。そしてそれが青の球にアクセスする人を巻き込むことになる。さらに、青の人が刺激されて考えること自体が、黒に対しての新たな付加価値をもたらす。情報の伝播というのは、単に話が伝わることでなく、行動の引き金となると同時に個人の知恵という付加価値が可逆的に累積することだ。

ソーシャル・ネットワークとはどういう関係になるの？

「現在の若者の労働環境について」の話で、『全力で子供達、若者のために力を注げばどんな子も必ず変わります。そしてこの子達がやがて国を変えたいと思います。』と言

った人は、大成功したラーメン屋さんだったらいい。それが、その職を投げ打って、収入が100分の1だけに減って、今、心の行き先を失った若い少年、少女の話を読み、力になろうと全国を飛び回っているらしい。大沢在昌の「[心では重すぎる](#)」の世界だ。すばらしいことだよ。ネットワークでそういう人がいて、頑張ってる！だけか？  
こういうことは、辛いことだよ。思い通りになんかいかないよきっと。落ち込む時だってあるだろう。全国にきっと同じようなことをしている人もいるだろう。同じようなことをしている人なら、励まし方も違うだろう。やり方にもお互い知恵を出し合えるだろう。そういう人たちをどうやって支えるんだ。ネットワークの役割は、そういう人たちを繋ぐことだと俺は期待する。

俺だって、オーガニック・コットンに関連して、全国の小学校の先生たちにコットンの栽培を生徒と一緒にやってはいかがですかと問いかけたい。真の狙いは二つだ。今、理数離れが問題だろう。コットン・ボールが弾けてセルロースが振れて繊維になるなんて、植物の驚嘆すべき神秘だよ。本当は2万倍くらいの電子顕微鏡で、しかもスローモーション写真で、その瞬間を俺も見たいよ。先生たちと繋がったら、俺が撮影するところを探すよ。しかも、日本で商業的に栽培していない。そういう機会を与えたい。同時に、毎日身につけている繊維なのに、コットンの栽培国なんてあまり分かっていないよね。しかも、環境問題やフェア・トレードを考えさせることもできる。国際感覚をつけさせる格好の材料だと思わないか？

栽培実験をしながら、そこまで自主的に考えさせる。決められたカリキュラムでいっぱいはいっぱいかもしれないが、そういうことをやりたいと思う先生はいると思うよ。おそらく、先生たちのネットワークだってあるかもしれない。そういうネットワーク間の交流を進めることだって改革・再生を目指すネットワークの役割だろうとおれは思うが・・・。

俺が、ソーシャル・ネットワークがエンジンというのはそういうことさ。個人の力をパワーにするにはウィモードのような改革・再生ということを掲げるネットワークが必要なんだ。登録するひとだけじゃいなら、MixiやGREEと同じだ。あれは、単なる遊び場の提供にすぎない。どうやって能動的になるか。分化したネットワークの課題だろうな。

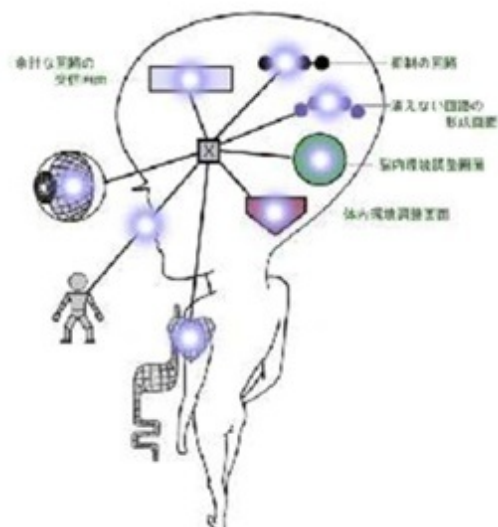
**ウィモードはそういうエンジンになり得るのか？**

分からない。でも、俺はそういう球を投げかける。紹介したのが実験と言ったのはそういうことだ。

2007.07.03 Tuesday [23:32](#) | posted by [渡辺 日出男](#)



## 竜馬、君ならどうする(5)－インターネットのもうひとつの側面



出所：<http://members.goo.ne.jp/home/north-lab/>

ひでおは、日本再生運動に参加するの？

俺には、改革を進めるなどという意識はあまりない。俺は、3つのことしか考えていない。

ひとつは、これまで述べてきたように収奪の構図の中で個人ができること。きちんとした企業の株式を持っているなら、外資の収奪から日本を守るためにTOBなどに右往左往しないで欲しい。証券会社主導の上場目的だけの様なベンチャーの株に翻弄されなくて欲しい。この二つを訴え続ける。

株主至上主義は市場原理主義と同じことで、それは、収奪に力を貸すことになり、格差を広げることになると考える人が少しでも多くなることを祈ってのことだ。これには、俺のブログなんてまったく力がない。エンジンとなるソーシャル・ネットワークに自分からもはたらきかけ、他の良心的な個人ブログとのつながりも太い線にするような努力をしながら訴えていくより俺のできることはないと思う。

二つ目は、唯一の資源である技術と人の知恵で世界と戦っていかなければならないということだ。国の経済力をどう維持するかだ。これには人材の育成が欠かせない。

そのための教育論議が盛んだ。道徳教育や学力低下の問題。これを真っ向から論議することは、勿論必要だ。政府が絡む教育改革は、いずれにしてもドッグ・イヤーだ。志を持って代議士になる人は、それでやってくれ。選挙で政権を変えて良くしたいと思う人は、それでやってくれ。しかし、時間がない。闘える若年層を作り上げるために個人としてやれることをやる。焦点は、国際感覚と語学力だ。

まず、今の中学生、高校生に闘える英語をどう教えることができるか、だ。外国人教師が増えたからといってそれは難しい。Nova 英語で闘うことなんぞできやしない。とは言っても、ここで俺ができることはほとんどない。

大学生以上なら、今すぐでもできる。それがスタートかな。俺のウェブ・セミナーは、いろんな面で改善が必要だが、あれはビジネスと英語の教科書になると思っている。

だって、今はハーバードだ、スタンフォードだ、MITだとビジネス・スクールで学ぶ日本人が多い。その人たちは国際感覚も闘える英語を身につけているだろう。

MBAを持っていても、本当に闘える英語力を持っている奴なんかものすごく少ない。俺は少しだけ英語ができるけど、外資にいたからだと思っている人が圧倒的に多い。外資に勤めていだって、闘える英語なんかできるやつは少ない。できる奴はみんな見えないところで必死に勉強した奴だ。日本にいたってできる。

また、そんなところで学んだことなんぞで米国人などと闘えると思ったら大間違いさ。MBAやMOTの知識なんかで、実際にビジネスを死に物狂いでやっている奴に太刀打ちなんかできないんだ。基礎にすぎない。今、日本でそれを振りかざしている奴は肩書きだよ。箔、箔だ。

もっと、大事なことがある。ハーバードなどのビジネス・スクールを出たって、米国人の後追いにすぎん。考えて見れば、あれだって米国の世界戦略にぴったりはまり込んでいる。米国のビジネス流儀の世界制覇だ。日本などより、台湾とか韓国などではアメリカのビジネス・スクールを出た奴が幅を利かせている。しかし、日本と違う。あの人たちは、そこを出たことでの箔や人の輪を使って自分がのし上がろうとする気持ちが強い。それに対して、日本人は、その箔で組織の中で認めて貰うためだもの。可愛いといえば可愛いだが、それでビジネスは闘えない、世界を相手にしては。

じゃ、どうするんだ？そこでひでおのやれることって何だ？

宣伝しているのかっていう奴が必ず出てくるから嫌になるけど……。

俺が自分のウェブ・セミナーを作る時、デュポンを調べた。あの会社は、出所がビジネス・スクールだろうが、コンサルタントだろうが、新しい経営手法が出てくるや否や使えるものかどうか徹底的に検証する。使えると思えばデュポン流にアレンジして、すぐ実践する。早いよ。

そういう意味で、米国の最先端の経営理論とその有効性をチェックするのに便利なんだ。

もし、デュポンにイノベーション・リーダーの頭脳や発想に入り込む、つまり想像力を高めるようなビジネス人材育成プログラムがあれば、俺なんかやっても無駄だったからだ。

しかし、ないんだ。どこにも。未だに。

俺、ブログでMITのビジネス・スクール、スローン校のレベッカ・ヘンダーソン教授のイノベーションのオープン・カレッジを散々けなしている。違いを分かって欲しいからやったのだが、効果はなかったと思う。

オーガニック・コットンのシナリオ作りを公開しているのは、俺のあがきとも言える。あなたたちが学んでいる理論で、このプロジェクトをやったらどうなるか自分で考えて見ろ、っていうメッセージだ。

このウェブ・セミナーの英語版を作ることはできる。勿論、米国人にブラッシュ・アップしてもらわなければならないが。そこでの英語はビジネスで実際に使うものだよ。そして、イノベーションに必要な、ということはビジネス戦略立案と遂行に必要な知識と技能を網羅している。

MBAやMOTを所得するためにビジネス・スクールに行くのもいいさ。でも、このセミナーをやってから行ったら、確実に教授と太刀打ちできる。はい、そうですかって、学ばばかりじゃない。議論ができるし、本当に使うための勉強ができることになる。

脳の発火を勉強しているのも、視覚効果の高いすごいウェブ・サイトを作りたいというのも、俺のウェブ・セミナーを改善して、ビジネスでの想像力をどうやって高めるかのためだ。

俺が、個人としてできるのはそういうことだ。

正直、俺のウェブ・セミナーが難しいと言う人が多いので、俺のエネルギーも落ちつつあるのも事実だが、“どく”、最初の図を見たね。

これは最近作られたばかりの[脳の研究個人ブログ](#)の中にある図なんだが、俺、勇気が出てきた。俺のブログにコメントがあった。4日前だよ。

オーガニック・コットン(8)で、いろんな想像が脳内を飛び交い、発火がめまぐるしいと書いたのを憶えているかな。

この研究ブログの図解は、発火状態とエリア(開発、マーケティング、資金調達、販促などのなど)ごとの頭脳内想像を視覚化するための大変なヒントになる。

自分で、ブログに自由自在に映像を描けるこの人が羨ましい。すばらしいブログにめぐり合った。インターネットの偶発性だけど、これにどうやって付加価値をつけることができるか、前回言ったばかりのことだけど俺の宿題がまた増えた。

このブログのリンクもレベルが高いものばかりだ。

子供たちの心の問題にどう立ち向かうか、試行錯誤している人たちがウィモードにもいる。そういう人たちにも今までとは違った角度から考えさせてくれるヒントがあると思う。

ビジネスと英語に関しては、勿論、俺のセミナーだけが良いわけじゃない。そのほかにも鍛え方はあるだろう。そう思う個人は、俺のようなサイトを作ればいい。そして、発信してほしい。

そして、三つ目。

俺は、よく人にアメリカナイズされた奴と言われる。バカ言えって言いたい。

俺は、日本人。しかも天皇制賛成の日本主義者だと思っている。右翼でもないし、民族主義者でもないが、日本主義なんて言葉があるのかどうかも知らないが、世界と同調できる日本主義者だ。お前とはこんなくさい話をしたことがないよな。俺がそういう奴と分かっているのは、友人の中でもたった一人だ。

そうだよ、俺は、日本と言う国が好きだ。だから、世界から食べ物にされたり、馬鹿にされたくない。

**ちょっと待て。何か古臭くないか、その考え。**

“どく”、よく聞けよ。

海外に行つて、窮地に陥り、殺されるかもしれないと思った時、お前、何を頼りにする。言葉も満足に通じないところで、電話だって磁石式で、簡単には国際電話も使えないところで……。逃げ込む先は大使館だよ。つまり国。

観光旅行で行く分には、そんなこと思わないだろう。知らない国だって親切な人が多いから、多少のことは大丈夫なんだ。でも、犯罪に巻き込まれたり、変な疑いから仮に逮捕された時は、どこに頼る？  
残念だけどな、属する国しかないのだよ。

ひでお、そんな経験あるのか？

あるよ。“貧すれば鈍する”の類の話だから詳しくは話したくないが……。生きて帰れないという恐怖心はあった。実際に大使館などに駆け込まなかったが、日本のバックアップチームが大使館と連携を採っているから、俺からの連絡が何時間か途絶えたら、すぐに大使館が動くと言っていた。バックアップチームなんてのも口から出まかせだけどな。

以前、イラクで人質になった女性がいたろう。イラクの子供たちを支援している個人ボランティア。解放されてから、自民党の人たちや多くの人が「散々自分勝手なことをして、国を頼りにして」みたいな批判しただろう。当時の小泉首相までが批判めいたことを言ったので、ちょっとがっかりした。

しかし、外務省がそんな批判をしたという記憶がないんだ。偉いと思ったよ。個人が個人の意思で、良かれと思うことをやる。政治の思惑とは別としても。あれは、犯罪じゃないだろう。その日本人が窮地に陥る。黙って助ける。それが国だろう。俺は、そこに税金が使われてもしようがないと思う。

ふ～ん。

俺は、少なくとも俺が活着ているうちに地球がひとつになることなど思っちゃいない。結局、国という単位でしか物事は進まないし、国どうしの利害関係の中で、できることしかやれないのだと思う。リシャールが世界銀行副総裁という立場にありながら、似たようなことを言っているのは、俺みたいな個人が思う以上に重みがあると思う。

何か夢のない話だなあ。ごめん、話折って。三つ目って何なの？

収奪を個人の力で阻止する。これは、今、すぐだ。  
闘えるビジネス若年層を鍛える。そのためビジネス経験者が知恵を振り絞る。戦える英語と一緒に。これは、今から10年ぐらいでやらなければならない。ここまではいいね。この先だ。

“日本人のアイデンティティ”って何だ？世界におけるわれわれ日本人の存在意義みたいなもんって何だ？

諸外国が日本をどう見るかなど関係ないという人もいるだろう。

収奪防止で諸外国のファンドと闘うんだ。  
技術で、経済で、闘うんだ。  
嫌でもどう見られるかになる。

ポジティブなのは、日本の技術、日本人の勤勉さ、日本人の清潔さ、犯罪の少ない安全な国、そんなところか？  
勤勉さも、安全も危うくなっているが……。

一方、ネガティブなものは何だ？  
文化、文化と特殊性を売り物にして訳の分からない国、戦争を起こして残虐なことをした国、政治不在の国。そんなところだろう。  
俺はね、日本人が、“公平”を社会規範として持ち、諸外国民から“公平な日本国民”と思われたいのだ。  
世界のどこの国にもないアイデンティティとして。

米国は、フェアという言葉が好きだし、よく使う。しかし、それは多民族国家をまとめるための象徴となる言葉であって、国がそうだとは言えない。

安部総理の“美しい国”のイメージは未だに分からないけど、俺の思う美しい国は“公平な国民からなる公平な国”だよ。平等とは違う。それは、権利の話だ。格差のない社会というのとも違う。格差が公平の範囲にあれば、いいんだ。

例の村上さんが、「お金を儲けることは悪いことですか？」って記者会見で言ったろう。俺は、「悪くないよ、あなたの手段をあなた自身が公平と思うのであれば」と問いかけた。  
三菱ふそうの会長たちが、トラックの車輪が外れた事故の責任で起訴された。無実と主張したろう。裁判結果もそうだったけど。片方はトラックを作った企業の総責任者。片方は、子供を失った母親。無実を主張した会長に聞きたい。それは公平な主張かと。

公平に基準はない。それぞれの人の心の中だ。  
俺、今でも憶えているよ。お前に最初に頭をひっぱたかれたのを。「お前の言うことは、

言葉だけなんだよ。観念的なんだよ」ってピシャ、だったろう。  
公平という言葉も観念的だと思うけど、この言葉を問いかけられたら、逃げ場はないよ。

正義という言葉には、逃げ場があるんだと思う。  
どんな戦争にも正義はないと言うだろう。しかし、逆に、どちらも正義を振りかざすことができるんだ。どちらにも正義はあるということなんだろう。今、お前の影響でやっているオーガニック・コットンでも、地球環境を憂う環境派に正義があると同時に安価なコットンの供給を謳う従来栽培法側にも正義はあるのだと思う。正義は論争の種にはなるし、対決の構図を生み、互いがそれを振りかざすから問題解決に時間がかかる。

言葉で説明しようとする自分でも訳が分からなくなる。  
しかし、“いじめ”問題にしろ、親と教師の問題にしろ、政治なら憲法改正や核の保有の問題にしろ、それぞれの問題に向かい合って何かを言ったり、行動する自分が、自分の心に、それが“公平か”を問いかける、それはきっと何か別の解決策を生むことになる、俺は思っているのだけれど…。

**ひでおがフェア・トレードに関心を持った理由がそれか？**

まだ、勉強途中もいいとこだけど。教えてくれたお前に感謝してる。

フェア・トレードって貧しい国の労働搾取を防ごうってことだろう。竜馬シリーズ(3)で書いた、レストラン・チェーンの労働実態。これだって搾取だよな。日本にもある。

俺は、日本がフェア・トレード大国になってほしい。今は、英国か？それにとって替わるフェア・トレード大国No1。

俺が、望む公平な国民の公平な国の具体的な行動のひとつだと思う。

フェア・トレードの対象って、コーヒーとか紅茶とかいろいろあるけど、俺は、これもお前のお陰だけどオーガニック・コットンに惹かれている。前回も書いたけど、コットン・ボールが弾け、薄いセルロースの一本、一本がコットンの作り出す自然の接着剤で引っ付き、それが種の保存のために最適の回転角度で振れる。この映像の想像が頭から離れないんだ。ものすごく美しいと思う。電子顕微鏡写真があれば、その瞬間を見たいよ。子供たちにも見せたい。

俺は、自然との共生について、お前のような精神性や環境派のような立派な論理など

持っていない。でも、美しいものは美しい。それだけだ。

**ひでおは行動の動機が、すべて、面白いか、美しいか、だもんな？**

そうだな。

でも、俺のやりたい、“日本の資産収奪を防ぐ”、“技術で世界と闘う”、“公平”ってことのが、志を持って何かをする、日本を変えるという人たちの行動のどこと矛盾する？ お前が、俺を「ひでおは攻撃的な人間だ。でも、攻撃してはいけないとは言っていない。攻撃する時はしなければならぬ。でも、やるなら、“美しい織物を織る機織のように”」って言ったろう。

お前が言おうとしていることは、正直なところ今でも分からぬ。しかし、この言葉が頭から去らない。

たったひとつ分かったような感じがすることはある。

俺が、誰かを批判したり、何かを違うと言ってみたところで、物事は変わらん。正義を振りかざすのと同じように。

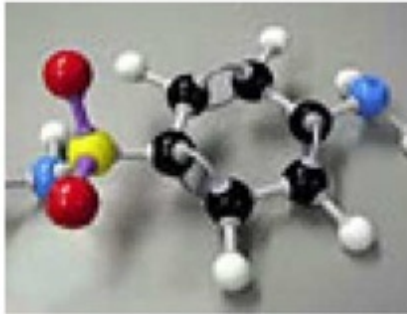
俺は、単に機を織る一本の糸にすぎない。他の縦糸と横糸の邪魔になってはいけない。いつでも他の糸の張り具合に合わせ、場合によっては俺の張り具合が他の糸が合わせてくれる基準にもならなければならない、ということかな。

俺は、真珠湾攻撃の約1ヶ月前に生まれた。なぜ、日本は戦争したのか、なぜ負けたのか、屈辱感にまみれながら悩んだよ。若いときだけ。しかし、その答えは見つからなかった。それは俺自身の生き方に大きく影響したと思う。

歯医者さんの“説教アロハ”は、その生き方を、“確信犯の負け組み人生”と言うけど、確信犯などではなかった。途方に暮れていたんだと思う。お前が、何時になったら“普通の大人”になるのだろう、ってよく言うだろう。その意味もよく分かってはいないが、多分そういうことだろう。

たまたま一度だけしか会っていないのに、俺を過大評価してくれるハンドル・ネーム“めざせ組織開発コンサルタント”さんがウィモードを紹介してくれ、すばらしい日記を書く私塾の主宰者wakoさんや再生日本のスタッフのルドさん、大沢在昌の世界を実践している“地球クラブ”さんなどの言動に刺激されて、このブログシリーズ“竜馬、きみならどうする”を書いてきたのだけれど、やっとな途方に暮れた”状態に決着がつきそうな気がしている。





お前から借りた[ハイ・イメージ論](#)で吉本隆明が言っているキルケゴールの言葉の意味が少しだけ分かるような気がしてきたということでもある。

『キルケゴールは、とてもいいことを言ってくれている。ひとつは「追憶されるものはすでにあったものであり、それが後方に向かって反復されるのに、ほんとうの反復は前方に向かって追憶される」といっていることだ。

歴史的に進行するとみなしている時間は、じつは現在になりつつあるものを媒介＝反復することによって、現在になることから成り立っている。それについて、ここから暗示が得られることだ。』

このシリーズでは、俺らしくないことを一杯書いてきた。気恥ずかしいところもある。

ただ、以前からお前に頭をひっぱたかれ、意味がよく分からないけど、何か核心をつくような言葉を投げかけられ考えさせられ、“ハーブ”からの厳しい言葉が、俺の何かを突き動かした原動力だ。今、つきものが落ちたような気がするが、俺もこんな元気でいられるのもせいぜいあと5年だろう。

“ハーブ”の言う、「一瞬にできることはかぎられている。だから、なにをやるか、なにに注意をむけているのか的を絞るということが一瞬一瞬でとても大事なのだ。」(オーガニック・コットン(8))を胸にできることをやっていきたいと思っている。

ところで、ひでおの“じじ顔”どうなった？

ああ、「シナリオなしの実験」(6月7日)か？

だめだな。

でも、面白いこと思いついた。

お前が、怪しい格好っていうように、ジーンズ、サングラスにタンクトップで肩丸出しの日焼けとちょっと割れた三頭筋だろう。それに安物だけとお気に入りのサメの歯のチョコカーに、お前がまだ見たことのないふにやふにやのプレスレットだ。週に3日の土

方仕事で走りまわるだろう。俺と同じくらいのじいさんがじっと見る。俺が見返すとあわてて目をそらすんだが、若い男の子なんか、目をそらさずに、お若いですねみたいなこと言うんだ。うるせ〜、と思うけど。

昨日も、オーガニック・コットン製品の価格を調べに行ったしゃれたお店で若い女の子が、そう言うんだあ。(お前の口調)

だから言ってやった。

「ボク、本当は若いんです。顔だけ年寄りに見える(お前が教えてくれた)

Hyperglycemia っていう病気に罹って・・・」って。どうせ、その言葉が低血糖症の意味だなんて知らないだろうから。

困った顔して下向いて黙っちゃったよ。

「嘘だよ」といったら、ほっとした顔で笑い転げていた。

面白かった〜。

ほんとにばかだね。もうやめなよ、いつまでもガキなんだから。

(このシリーズ終わり)

2007.07.05 Thursday [10:32](#) | posted by [渡辺 日出男](#)

竜馬、君ならどうするーインターネットのもう一つの側面

<http://p.booklog.jp/book/41544>

著者 : Hideo, Japan

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hzwatanabe/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41544>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41544>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.